

「βラクトリン」を使い軽度認知機能障害（MCI）を対象に 特定臨床研究を開始

～浜松市、聖隷福祉事業団と連携し超高齢社会の課題解決へ貢献～

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典、以下キリン）は、静岡県浜松市（市長 鈴木康友）の協力のもと、聖隷福祉事業団（理事長 山本敏博）と共同で、キリン独自素材である乳由来「βラクトリン^{※1}」を用いた軽度認知機能障害（以下、MCI）の方を対象とした特定臨床研究を2020年9月に開始しました。

キリンは、2020年2月に、浜松市、市内の医療機関や大学、参画企業などと共に「浜松ウエルネス・ラボ^{※2}」を設立し、「予防・健幸都市 浜松」の実現に向けて、実証研究を通じて同市民の予防・健康づくりに貢献する取り組みを開始しています。今回、βラクトリンがMCIの方の認知機能や気分状態に及ぼす影響について、浜松市などで複数の医療福祉施設を運営する聖隷福祉事業団と共同研究を行います。

これまでキリンでは、乳製品摂取と認知症予防に関する疫学調査に着目し、乳製品が認知機能に与える影響についての研究を行ってきました。2015年には、東京大学との共同研究を通じて乳由来の認知機能改善成分βラクトリンを発見し、手軽に摂取可能な食品素材を開発しました^{※3}。さらに2019年には、慶応義塾大学などの共同研究を通じて、βラクトリンの継続摂取が健常中高年の記憶機能および注意機能を改善することを見出しました^{※4}。

● 取り組み概要

浜松市民を中心にMCIと判定された方を対象として、βラクトリンを含むサプリメントもしくはプラセボを継続摂取した際の認知機能および気分状態を評価し、βラクトリンのMCIへの作用を検証します。

- (1) 募集期間：2020年9月～2021年8月
- (2) 対象者：軽度認知機能障害の症状を有する50歳以上の男女（80名予定）
- (3) 実施内容：βラクトリンを含むサプリメントもしくはプラセボサプリメントを24週間摂取
- (4) 検査内容：摂取前後で聖隷福祉事業団が提供するMCIドックの受診に加えて、認知機能検査、気分状態検査、QOL調査、血液検査、嗅覚検査を行います。

● 取り組みから期待される成果

βラクトリンの継続的な摂取がMCIの認知機能および気分状態にどのような作用があるかを検証し、日常生活を通じた脳の健康維持のソリューションの開発に繋がるとともに、浜松市民の脳の健康に対する意識向上の啓発活動に活用していきます。

キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します。

- ※1 トリプトファン-チロシン配列を有するβラクトペプチドのうち、アミノ酸4残基のGTWYペプチド（グリシン-スレオニン-トリプトファン-チロシン、GTWY）を指す。
- ※2 2020年2月18日リリース「静岡県浜松市に「浜松ウエルネス・ラボ」を設立」https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0218_01.html
- ※3 論文タイトル：Novel lactopeptides in fermented dairy products improve memory function and cognitive decline.
著者：阿野泰久、高島明彦、中山裕之、他、雑誌名：Neurobiology of Aging
DOI番号：10.1016/j.neurobiolaging.2018.07.016.
- ※4 論文タイトル：Supplementation with whey peptide rich in β-lactolin improves cognitive performance in healthy older adults: a randomized, double-blind, placebo-controlled study
著者：喜多真弘、梅田聡、阿野泰久、他、雑誌名：Frontiers in Neuroscience
DOI番号：10.3389/fnins.2019.00399
2019年4月25日リリース「世界初！乳由来βラクトリンが記憶力を改善することをヒト試験で確認」
https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0218_01.html